

# 大村市竹松遺跡から古代の文字資料

## や中世「湖州六花鏡」を発見 ！！

～ 平成24年度・九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に伴う竹松遺跡発掘調査で、古代末～中世（平安時代～鎌倉時代）の時期に、遺跡周辺に古代・彼杵郡の津（みなど）があったことを物語るような貴重な文字資料や中国との交流を示す鏡が発見されました ～

### 1. 古代の文字資料が3点出土しています。

(1) 滑石製紡錘車ぼうすいしゃに「木」・「都」の2文字の線刻文字が確認され、「木」(き)の「都」(つ)と読み、彼杵郡の「杵(き)の津(つ)・(その)きのつ」と理解される資料です。

彼杵郡の港を表す文字資料としては、県内で発掘調査により発見された初めての貴重な資料です。

(2) 土師器の外面に横位に「有家」の2文字が記載された墨書土器ぼくしよが発見された。部位・書体などから人名と判断される資料です。

(3) 土器に「見」が刻まれ、その上に文字の残画がわずかに認められ、2文字以上が想定されます。人名または地名などの記載と考えられますが、上部欠損の現状では詳細は不明です。

2. 中世・宋代の「湖州六花鏡」が、土<sup>ど</sup>墳<sup>こう</sup>（墓）と思われる中から発見されました。鏡は、布で丁寧に覆われていたと推測されます。また、いっしょに青白磁<sup>せいはいくじこうす</sup>合子が埋納されていました。

鏡には、「湖州真石家 念二叔照子」とも読める銘文があります。

中国<sup>せつこうしやう</sup>浙江省興<sup>せいこうしやう</sup>浙江周辺の鉱山から産出した原料を使用し製作された鏡で、中国や周辺地域との交流を示す貴重な史料です。

### 【発見の意義】

1. 線刻文字「木」と「都」・墨書土器「有家」・刻書文字「L見」の発見の意義について

(1) 古代の線刻文字「木」き（彼杵郡）の「都」つ（津（みなと））の文字が書かれた紡錘車の発見で、彼杵郡の津（みなと）を理解させる文字資料です。

(2) 線刻文字「木」・「都」、墨書土器「有家」、刻書文字「L見」の文字資料の発見のほか貿易陶磁器（越州窯系青磁）や国産の緑釉陶器等の貴重な出土遺物や住居跡7軒・掘立柱建物6軒を含む建物跡の柱穴群3，000箇所や鍛冶炉跡3基・井戸跡等の遺構が多数発見されていることから、竹松遺跡周辺には古代において、郡<sup>ぐんが</sup>衙などの地方の役所等が存在したことが推測されます。

2. 「湖州六花鏡」の発見の意義について

(1) 中世の宋代「湖州六花鏡」は、青白磁合子とともに墳墓に埋納されたものと推測されます。

(2) 「湖州六花鏡」の発見は、中世・鎌倉時代に中国や周辺地域との交流を示す貴重な遺物です。鷹島海底遺跡で海中より発見されて

いる湖州鏡と銘文が類似しています。

(3) 竹松遺跡は、中世の建物の柱穴群や二面庇付掘立柱建物を取り  
囲む周濠、貿易陶磁器（龍泉窯系青磁碗）等の存在から、中世豪  
族の居館跡が存在した可能性が窺われます。

### 竹松遺跡出土遺物



### 線刻紡錘車



「木」



「都」



墨書土器



「有家」



刻書文字「見」



湖州六花鏡 背面



## 同 鏡面



鏡 背面に残る編み込みをした木質片の顕微鏡写真



## 鏡 鏡面に残る織物片の顕微鏡写真



竹松遺跡 空撮写真（南から）



# 竪穴住居跡の調査風景

